



地場産業の 景気 天気図



晴れ



晴れ一部曇り



曇り





曇り一部雨







雨







好調



不調





業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海面養殖	 ▶ 	マダイの浜値は845円/kg前後と前月比で約45円値上がりした。サイズにより品薄状況が続いており、原油などの価格高騰の影響もあり今後も価格は上昇すると予想される。ハマチの浜値は、1,250円/kg前後と前月比約40円値上がりした。全国的な池尾数不足は変わらず、高値推移は継続する見込み。





業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
水産加工品	 ▶ 	削り節の原材料であるカツオは、漁獲量が回復傾向にあることから、バンコク相場(国際相場)は前月比約5%低下の1,400~1,500ドル/トンと弱含みで推移している。ただ、7月から集魚装置を用いた漁の禁漁期間に入ったため、下げ止まりから上昇に転じると予想されている。一方、国内相場は240円/kg(前月比+10円)と、緩やかに上昇している。



業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 ▶ 	7月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は3,830梱で、前年同月比22.5%増となった。中国主要都市のロックダウン(都市封鎖)や円安による輸入コストの上昇で、国内シフトの動きがみられる。綿糸価格は主力の20番手は154,750円/梱で値上がりが続いているが、国際相場は欧米などの消費減退の懸念から、値下がりに転じている。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況	
製紙	印刷・情報用紙 新聞用紙	 ▶ 	印刷・情報用紙の6月の国内出荷は、前年同月比0.1%増で3ヵ月ぶりの増加。行動制限の緩和により、各種イベントが再開し、チラシやパンフレットなど商業印刷向けで需要増加がみられた。しかし、円安や原料高などの経済先行き懸念や、7月後半からの感染再拡大をうけ、今後の見通しは不透明。新聞用紙は前年同月比3.9%減で13ヵ月連続の減少。
	衛生用紙	 ▶ 	5月の国内出荷は、前年同月比0.5%増で8ヵ月連続の増加。トイレット紙が同0.9%増、タオル用紙が同5.9%増。ティッシュは、大幅に増加した前年の反動減で前年同月比4.1%減と2ヵ月連続の減少となった。
	紙加工など	 ▶ 	段ボール原紙の6月の国内出荷は、前年同月比1.2%増で3ヵ月ぶりのプラス。飲料や通販向けは堅調だったが、工業製品向けが自動車関連の部品不足などの影響で低調だった。包装用紙の6月の国内出荷は前年同月比2.3%増で15ヵ月連続の増加となった。大王製紙は、9月納入分からの段ボール原紙、包装用紙の価格改定実施を決定した。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
一般機械 金属製品 鉄鋼	 ▶ 	港湾・工場向けのクレーンや、電力会社・化学プラント会社向けの製品の受注が低調。しかし、秋口からは徐々に受注環境が改善するとの観測もある。鋼材価格は高止まりし、価格転嫁の動きがみられるが、効果は一部にとどまる。建設機械は、6月の出荷が前年同月比6.4%増で20ヵ月連続増加となったが、増加幅は縮小。住友グループ工場のメンテナンスや、半導体関連は安定した受注を確保している。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
造船	外航  ▶ 	手持ち工事量は2～2年半程度を有している。日本船舶輸出組合によると、7月の輸出船契約実績は19隻・94万4千総トンで、前年同月比14.6%増だった。船種別にみると、国内造船所が得意とし、船価水準と海運市況の乖離が小さいハンディ型やハンディマックス型バルカーの成約が多い。鋼材価格は高止まって推移。
	内航  ▶ 	手持ち工事量は、1～1年半程度を有している。資材価格の高騰や人手不足による人件費上昇などで採算面は厳しい状況が続く。政府が掲げる2050年ゼロエミッション目標に向けて、国内の造船所ではLNG燃料の内航貨物船や水素燃料旅客船などが竣工しており、今後の普及が期待される。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海運	外航  ▶ 	バルカー市況は下落している。BDI(バルチック海運指数)は7月28日に2,000を割り込み、その後は1,800～1,900台で推移している。ウクライナからの穀物輸出が再開され、荷動き・市況の回復が期待される。コンテナは、中国主要都市のロックダウンが解除され、物流は正常化に向かいつつあるが、船舶の大型化や欧米の景気後退懸念などから、市況は弱含んでいる。
	内航  ▶ 	内航海運組合総連合会によると、6月の輸送量は、貨物船が前年同月比9.3%減、タンカーが同4.5%減となった。鋼材需要の減少から、鉄鋼や原料(石灰石、スラグ等)、燃料(石炭)などは、荷動きが鈍化している。一方、タンカーは、電力不足問題から、火力発電所向けの重油の輸送量が増加している。白油はガソリン需要の低迷で輸送量は減少している。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
建設	 ▶ 	7月の県内の公共工事請負金額は、前年同月比22.4%増の163億円であった。「国」や「県」が前年を下回ったものの、「独立行政法人等」や「市町」で前年を上回った。6月の住宅着工戸数は前年を10.4%下回る778戸となった。利用関係別では、「分譲住宅」が前年を上回ったものの、「持家」や「貸家」が前年を下回った。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
観光	 ▶ 	6月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比276.3%増の49,360人と、7ヵ月連続で前年を上回った。 主要観光施設入込み客数は、東予(前年同月比42.9%増)、中予(同29.1%増)、南予(同10.1%増)とすべての地域で前年を上回り、全体(同21.0%増)でも、4ヵ月連続で前年を上回った。